

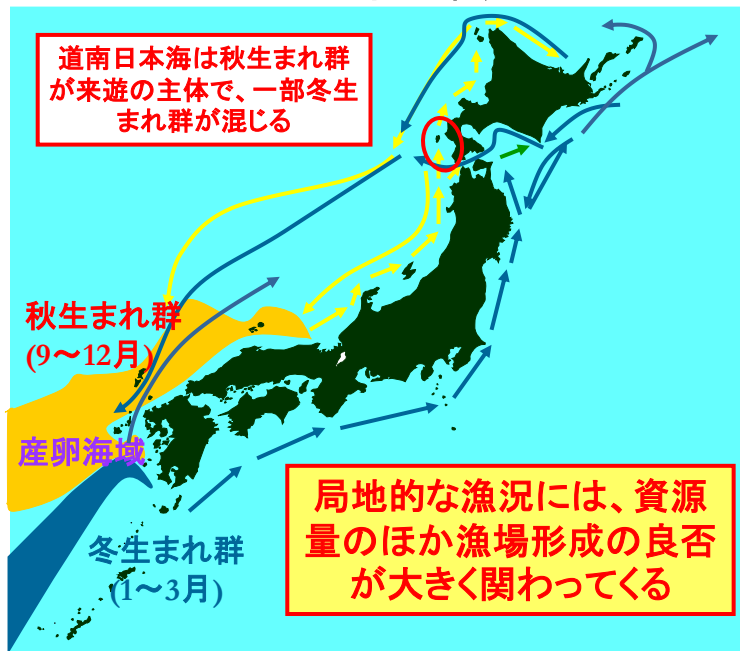
道南日本海のスルメイカの漁況と来遊状況の変化について

調査船 金星丸

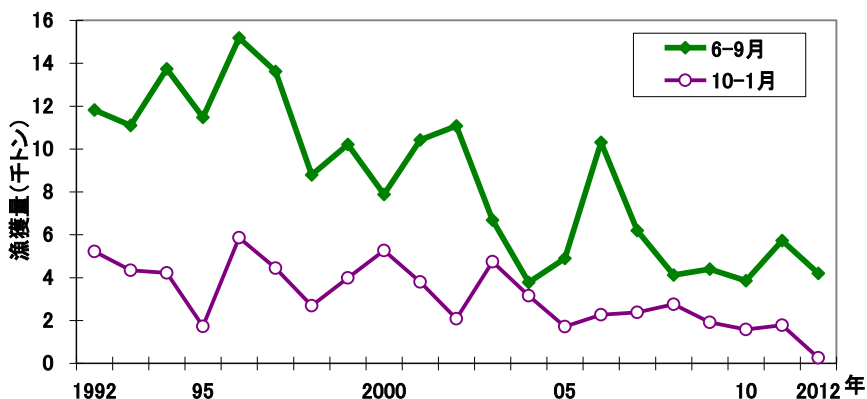


道総研 函館水産試験場 調査研究部
澤村 正幸

スルメイカの回遊



道南日本海における時期別スルメイカ漁獲量

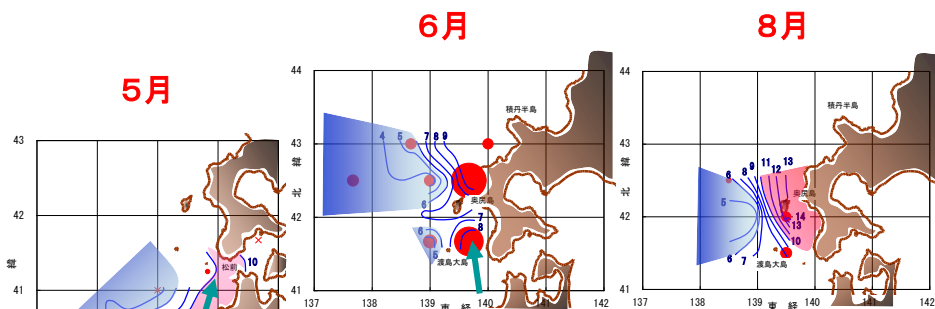


・漁期前半の6～9月が年間漁獲量の大部分を占める

・檜山・松前での漁獲のピークは7月となる年が多い

漁獲の主体となるのは北上期の秋生まれ群

2013年日本海調査船調査でのスルメイカ分布



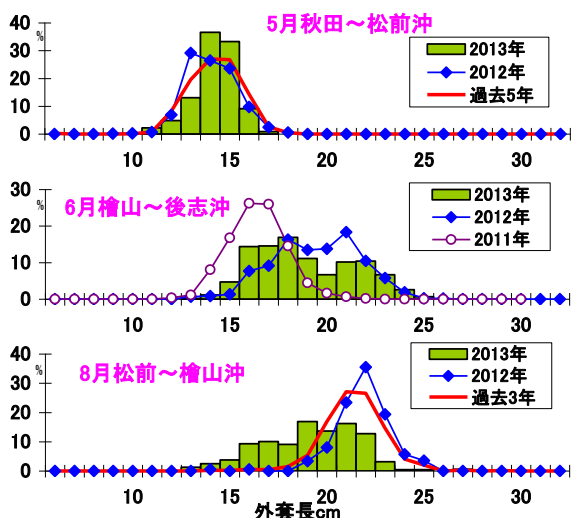
●は漁獲調査点を示し
大きさはCPUE（釣り機
1台1時間あたり漁獲
尾数）に比例
等温線は50m層の水溫

・群の分布の中心は沿岸寄り

・海域全体の平均分布密度は過去の調査に比べ低く、特に後志海域で低い傾向が見られた

・50m水深では6月まで水溫は低く、沖合から冷水が岸近くまで張り出す

2013年日本海調査船調査での魚体サイズ組成



•全体的な魚体サイズは、5月は昨年及び過去5年平均並み。6、8月は昨年より小さい

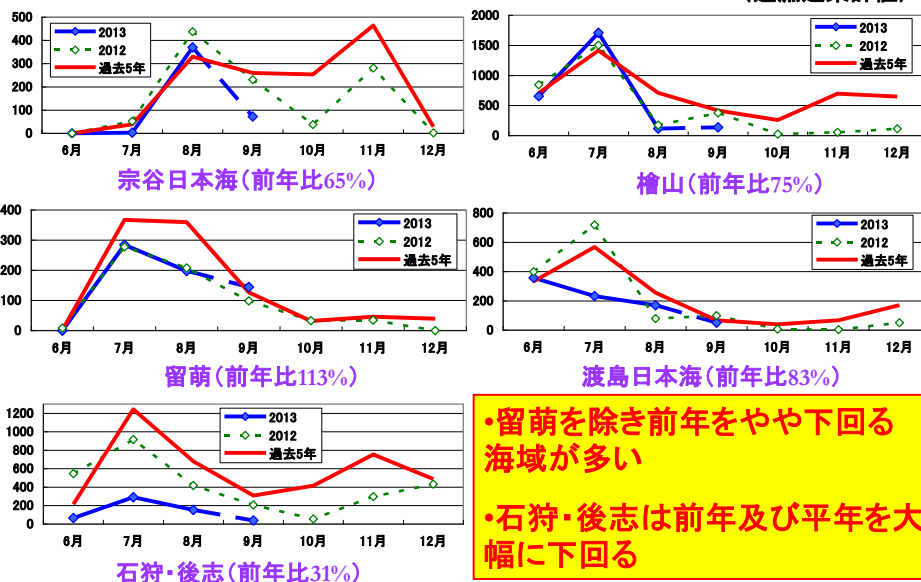
•6月、8月は体長のばらつきが大きい傾向が見られた

•8月は6月より小型化

生まれ時期の早い大型の群は通過し、代わって生まれ時期の遅い小型個体の群が来遊したと考えられる。

9月25日現在までの道内日本海地域別漁獲量

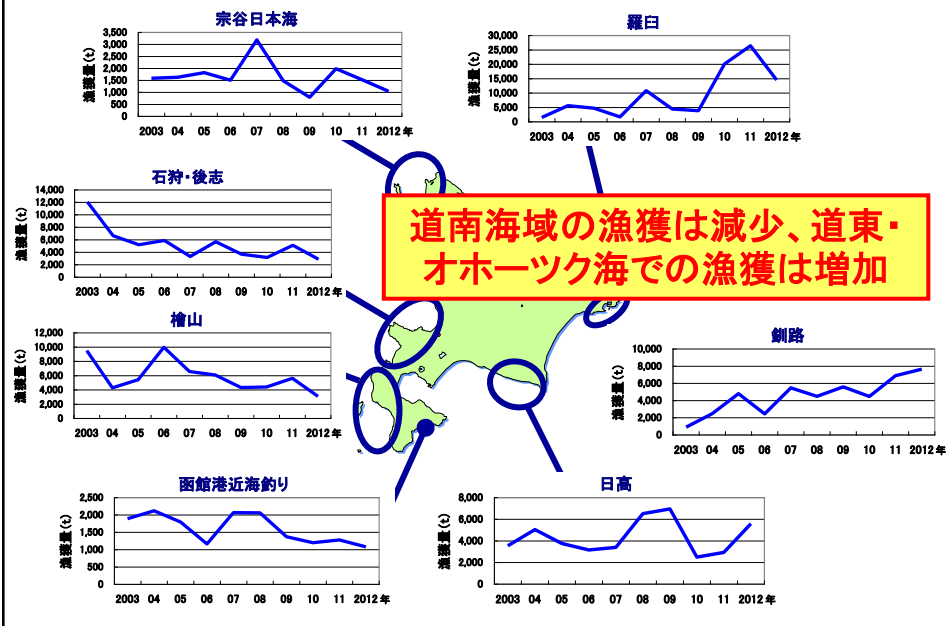
(道漁連集計値)



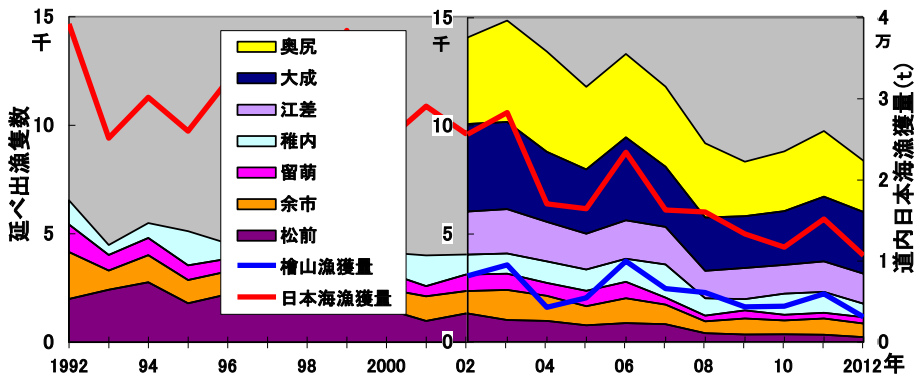
•留萌を除き前年をやや下回る海域が多い

•石狩・後志は前年及び平年を大幅に下回る

過去10年の道内海域別スルメイカ漁獲量の変化



道内日本海の漁獲量と主要港の延べ出漁隻数の変化

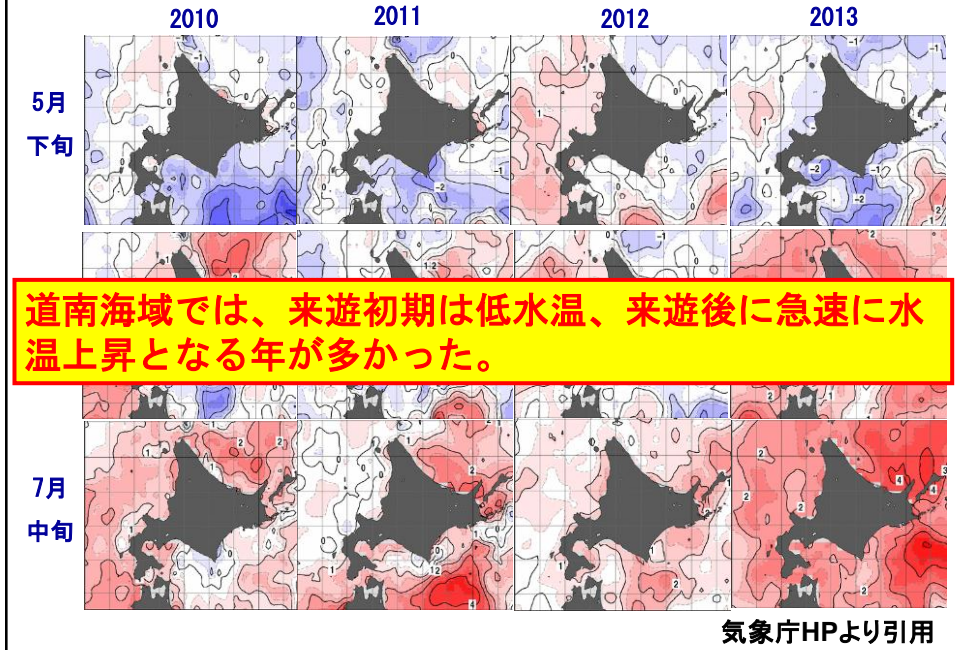


漁獲量の減少は出漁隻数の減少傾向とかなり一致

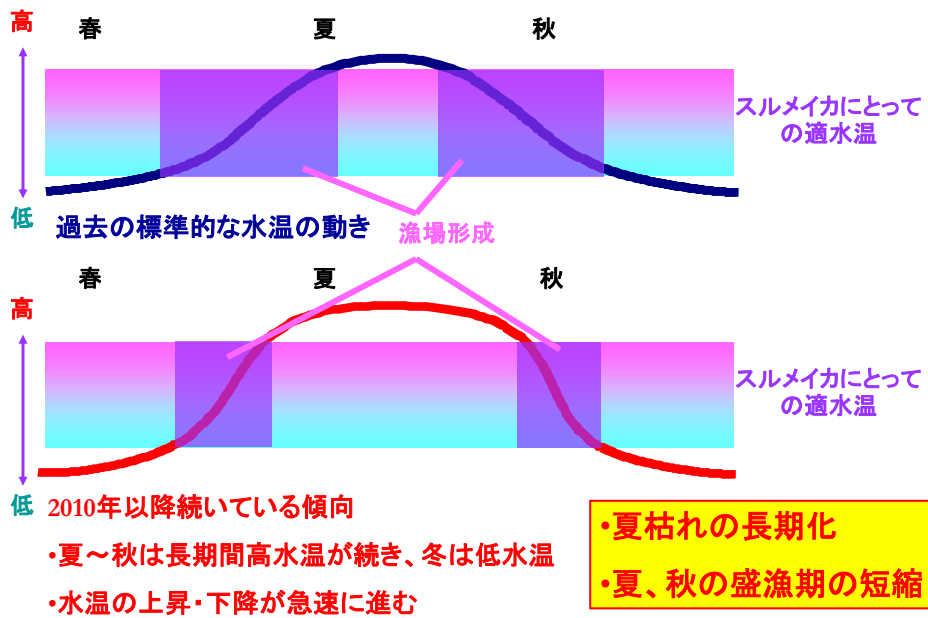
ただし、出漁隻数の減少で全てが説明できるわけではない。

2008年以降、出漁隻数は横ばいの状態が続くが、漁獲量は減少。

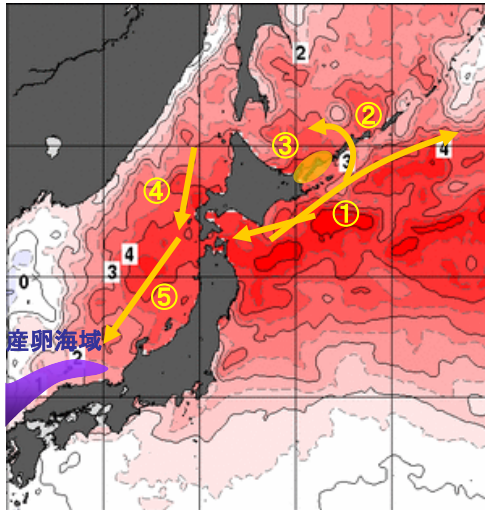
近4年の表面水温偏差の推移



水温と道南でのスルメイカ漁場形成期間(模式図)



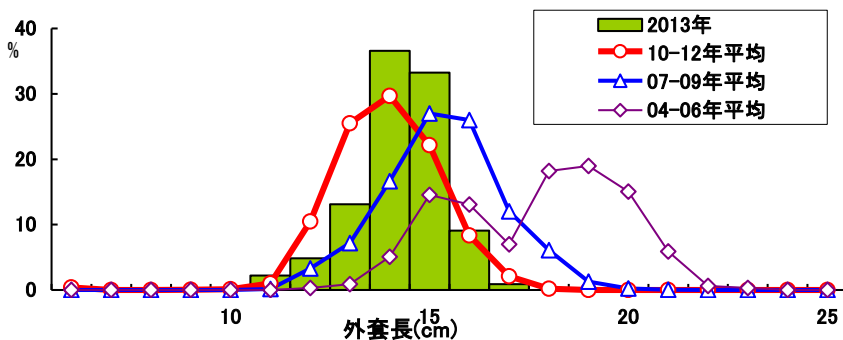
夏～秋の高水温が漁況に与える影響



- ①特に太平洋側で回遊範囲が北に伸びる
- ②太平洋の群の一部がオホーツク海に移動
- ③晩秋に羅臼周辺で豊漁（太平洋からの群が主体）
- ④道南では南下群の来遊が遅れる
- ⑤産卵海域への南下も遅れる→翌年の発生時期の遅れにもつながる

2012年9月の表面水温（平年差） 気象庁HPより引用

過去10年の5月日本海北上期調査での魚体サイズの変化



過去10年間に、北上期日本海スルメイカの小型化と来遊の遅れが同時に進んでいる

生まれ時期が過去に比べ遅くなってきているのではないか